

緩やかな回復の動きを続ける県内経済

1. 平成19年2月の県内経済

消費動向をみると、大型小売店販売額は前年同月比で増加したが、乗用車販売台数は主力の中小型乗用車の低迷が響き前年割れとなり、盛り上がり欠けるなど消費は総じて横這い圏内の動きとなっている。生産活動は、電子部品・デバイスや自動車関連の業種を中心として、増勢基調で推移し、雇用動向は有効求人倍率が15ヵ月連続で前年を上回るなど改善基調を維持している。一方、投資動向では、公共工事前払保証取扱保証請負金額が前年同月を上回ったものの、新設住宅着工戸数は前年割れとなるなど低調に推移している。以上のことから、県内経済は消費や投資動向などで力強さに欠けるものの、生産活動と雇用情勢が牽引役となり、基調としては緩やかな回復の動きを続けているとみられる。

〔消費動向〕 横這い：消費者物価指数は前年同月および前月を下回り、大型小売店販売額は2ヵ月連続で前年同月を上回った。乗用車販売台数は、主力の中小型乗用車を中心に低迷が続いており、総数でも前年同月を5ヵ月ぶりに下回った。個別企業の動向をみると、家電量販店の販売は、テレビ、デジカメ、白物家電等が好調、前年同月を上回り推移した。ホームセンターの販売は除雪用品や灯油が低調なことなどにより、前年同月を下回った。旅行取扱額のうち、国内は好調だったものの、海外が落込み全体では前年同月をやや下回った。消費は総じて横這いの動きとなった。

〔投資動向〕 やや減少：公共工事前払取扱保証請負金額は前年同月を上回ったものの、建設着工棟数（民間・非居住用）、新設住宅着工戸数は前年同月を下回った。

〔生産活動〕 増加基調：個別企業の動向を業種別にみると、薄型テレビなどデジタル家電や自動車向けなど幅広い用途で堅調な電子部品・デバイス工業、樹脂材料や電子部品向け原料などが好調な化学、海外からの受注が好調な情報通信機械、精密機械、鉄鋼・非鉄金属などの業種でそれぞれ増産となった。これらの動きと並行して、大口電力販売量も43ヵ月連続して前年同月を上回っており、生産活動は総じて増加基調で推移している。

〔企業倒産〕 改善：倒産件数および負債金額とも前年同月を下回り改善の動き。

〔金融動向〕 横這い：1月の預金、貸出金は前年同月比ほぼ横這いの水準で推移した。

〔雇用動向〕 改善基調：新規求人倍率ならびに有効求人倍率とも前年同月を上回り、改善基調が維持されている。

県内経済動向の概要

	項 目	1 月		2 月		3 月	
		前年同月比	前 月 比	前年同月比	前 月 比	前年同月比	前 月 比
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	↗	↘	↗	↘	—	—
	乗用車新車登録台数	↗	↗	↘	↗	↘	↗
	消費者物価指数（総合）	⇒	⇒	↘	↘	—	—
投資動向	公共工事前払保証取扱保証請負金額	⇒	↘	↘	↘	⇒	↗
	建設着工棟数（民間・非居住用）	⇒	↘	↘	⇒	—	—
	新設住宅着工戸数	↘	↘	↘	↘	—	—
生産活動	鉱工業生産指数（総合）注1	↗	⇒	—	—	—	—
	大口電力販売量	↗	↗	↗	↘	—	—
企業倒産	企業倒産件数	↘	↘	↗	↗	↘	↘
	企業倒産金額	↗	↘	⇒	↘	↘	↘
金融動向	預 金	⇒	↘	—	—	—	—
	貸 出 金	↘	↘	—	—	—	—
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）注2	↗	↗	↗	↗	—	—
	新規求人倍率（パート含む）注2	↘	⇒	↗	↗	—	—

良化 ↗ 良化傾向にあるがほぼ横這い ⇒ 悪化傾向にあるがほぼ横這い ⇐ 悪化 ↘

注1：季節調整済。 注2：季節調整値。

2. 直近の県内経済

消費動向

大型小売店 2月の県内大型小売店の販売額は全店舗ベースで169億00百万円(前年同月比4.6%増)となり、2ヵ月連続で前年を上回った。また、既存店ベースでは同0.6%減となり、14ヵ月連続で前年を下回った。業態別に内訳をみると、百貨店は、菓子など食料品は伸びたものの、暖冬の影響で婦人服を中心に冬物衣料が低迷し、30億63百万円(同4.3%減)と5ヵ月連続で前年を下回った。スーパーでは、主力の食料品が菓子、果物などを中心に伸びたことや婦人・子供服などに動きがみられたことから、138億37百万円(同6.8%増)と12ヵ月連続で前年を上回った。

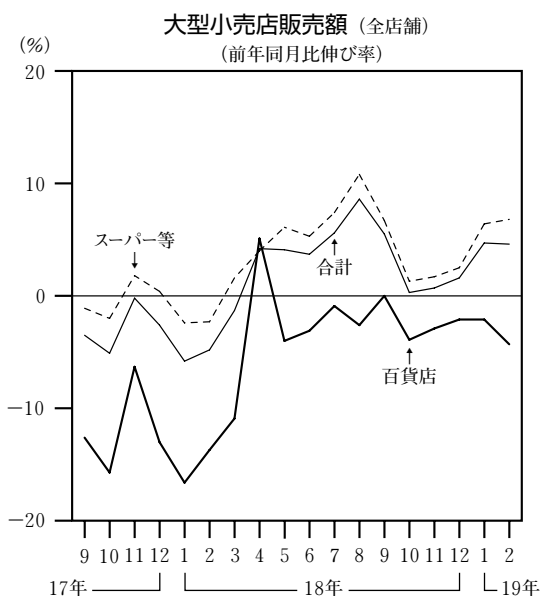
乗用車販売 3月の乗用車新車登録台数(軽乗用車含)は、主力である中小型乗用車が大きく減少したため、10,772台と前年同月比10.7%減と2ヵ月連続で前年を下回った。車種別で見ると、大型乗用車が1,588台(同9.4%減)と3ヵ月連続で前年を下回り、中小型乗用車も5,077台(同20.4%減)と18ヵ月連続で前年を下回った。一方、軽乗用車は、4,107台(同4.5%増)と10ヵ月連続で前

年を上回っている。2月の乗用車中古車登録台数(軽自動車は名義変更を含む)は、10,821台と前年同月比3.4%減となった。車種別にみると、大型乗用車は3,048台と前年同月比5.4%減、中小型乗用車は4,446台と同4.2%減、軽乗用車は3,327台と同0.3%減となった。

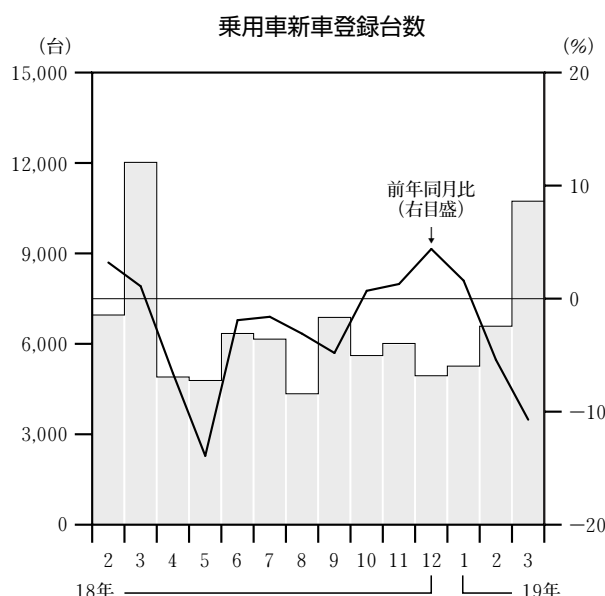
消費者物価指数 2月の消費者物価指数は、総合指数(福島市、平成17年=100)が99.3と前月比で0.9ポイント下降し、前年同月比でも0.5ポイント下降した。費目別の指数の動向をみると、「教養娯楽」は97.7と前月比0.8ポイント、「教育」は100.6と同0.1ポイントそれぞれ上昇した。一方、「被服及び履物」は婦人服の冬物等が下落したため89.6と前月比3.9ポイント、「食料」は99.2と同1.8ポイント、「交通・通信」は98.5と同1.7ポイント、「保健医療」は98.2と同0.4ポイント、「光熱・水道」は104.3と同0.3ポイントそれぞれ下降した。

家電量販店 3月は、薄型テレビ、携帯電話、デジタルカメラなどの販売が好調に推移した。また冷蔵庫や洗濯乾燥機など白物家電の販売も、入・進学や就職シーズンを迎え前年を上回るなど好調に推移した。

ホームセンター 3月の売上は、インテリア用品、



(資料：経済産業省)



(資料：県乗用車販売店協会)

日曜大工用品など家庭用品や電化製品が前年同月と比べて伸びたものの、暖冬の影響で灯油が大きく減少したことやドラッグストアとの競合商品などが落ち込み、全体では前年並みの水準で推移した。

旅行 2月の旅行取扱額実績のうち、国内旅行の団体は、好調に推移し前年同月を上回った。一方、ハワイや中国など海外旅行の個人は好調だったものの、団体が前年を割り込み、全体の取扱額では、前年をやや下回ることとなった。

高速道路 2月の県内自動車道の通過台数は合計で3,083,981台（前年同月比4.3%増）となった。路線別にみると、東北自動車道（白河IC～国見IC）が1,824,279台（同3.5%増）、磐越自動車道（いわき三和IC～郡山東IC）が210,906台（同12.5%増）、磐越自動車道（磐梯熱海IC～西会津IC）が445,803台（同3.6%増）、常磐自動車道（いわき勿来IC～常磐富岡IC）が602,993台（同4.7%増）となった。

福島空港 3月の福島空港国内便の利用状況は、札幌便が10,509人（前年同月比10.5%増）、増便により大阪便が20,227人（同25.8%増）、沖縄便が5,906人（同2.3%減）、名古屋便が減便により

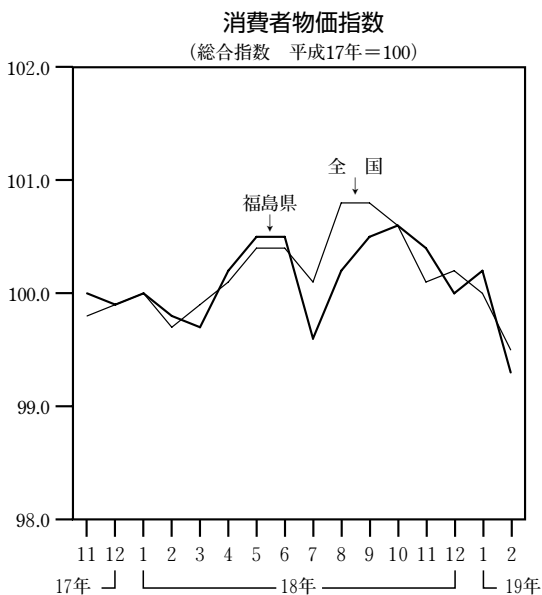
1,526人（同36.1%減）となった。国際便では、上海便が1,813人（同1.7%減）、ソウル便は減便により3,526人（同12.8%減）となった。3月の搭乗率をみると、国内便が64.0%（同5.3ポイント増）、国際便は73.7%（同16.7ポイント増）となった。

— 投資動向 —

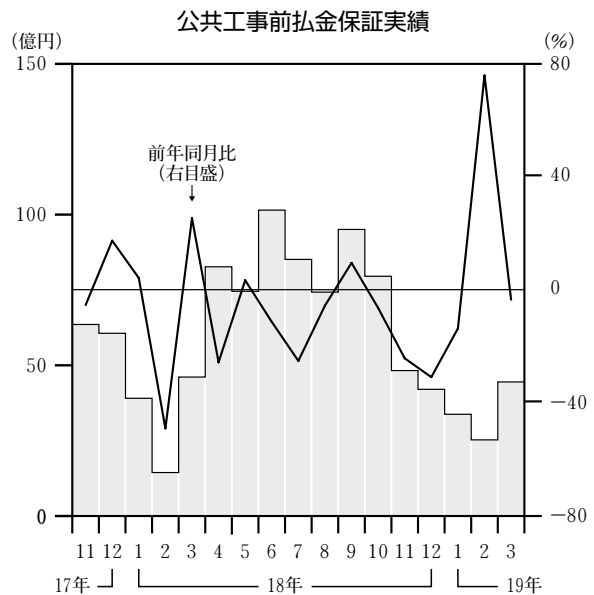
公共工事 3月の公共工事前払保証取扱は、件数が215件と前年同月比4.4%増加したが、請負金額が11,679百万円と同3.6%、保証金額は4,448百万円と同3.5%それぞれ減少した。県、市町村からの発注工事が減少したため、請負金額は前年を下回った。

設備投資 2月の建築着工（民間・非居住用）の棟数は、155棟（前年同月比8.8%減）、床面積は、56,442㎡（同32.9%減）、工事費予定額は、6,187百万円（同6.0%減）とそれぞれ減少した。

住宅建設 2月の県内新設住宅着工戸数は、726戸と前年同月比15.7%減となった。利用関係別でみると、持家は407戸（前年同月比1.5%減）、貸家は285戸（同26.4%減）、分譲は34戸（同43.3%



(資料：総務省統計局)



(資料：東日本建設業保証㈱)

減)となった。特に、貸家と分譲は前年の反動から大きく減少した。

— 生産活動 —

鉱工業生産指数 1月の鉱工業生産指数は、季節調整指数でみると106.2で前月比1.0%上昇し、原指数でみると97.8で前年同月比4.0%上昇した。業種別(原指数)にみると、精密機械工業が96.6と同34.4%、非鉄金属工業が111.3と同9.2%それぞれ上昇した。一方、情報通信機械工業が87.7と前年同月比7.5%、電子部品・デバイス工業は83.9と同4.2%とそれぞれ減少した。

化学 3月の食品包装フィルム用合成樹脂の生産は、国内外の好調な受注を背景に、前年同月上回り推移した。金属代替プラスチックや炭素繊維なども電子部品向けの受注増などにより高操業の生産が続いており、前年同月を上回った。2月の酸化チタン(白色顔料、自動車用塗料向け)の生産は前年並みの水準で推移、バリウム化合物(電子部品原料)の生産は液晶用塗料向けなどの受注が好調であり、前年同月を上回った。

鉄鋼・金属 3月のトラック用鋳造品の生産は、前年同月並みの水準となったが、建機用は、オー

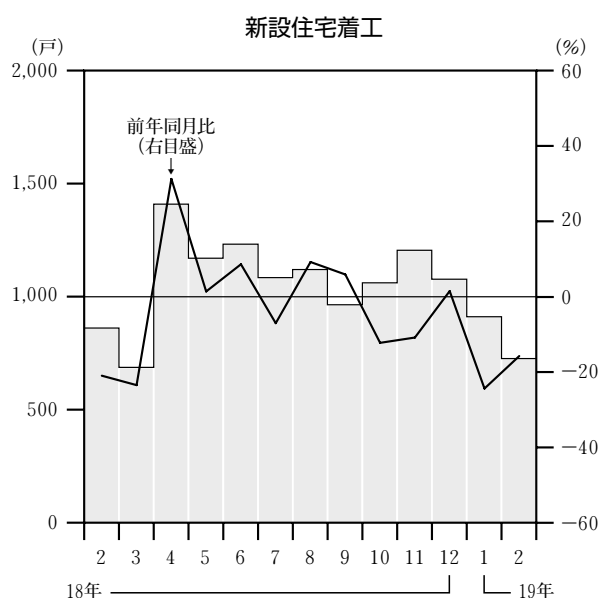
ストラリア、中国向けなど海外からの受注が好調であり、前年同月を上回る生産が続いている。車両用は、国内での新幹線向けの受注が伸びており前年同月比で増産となった。陸船用バルブ部品は、好調な受注に支えられ、前年同月を上回る高水準の生産が続いている。

輸送用機械 3月の自動車用オイルシールの生産は、国内向けの受注が伸びず、ほぼ前年並みの水準で推移した。自動車用ブレーキ摩擦材は、補修用が好調だったものの、全体では前年並みの生産となった。

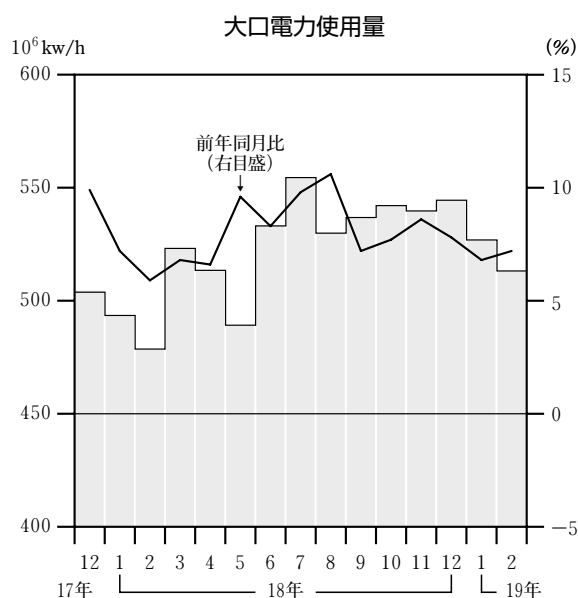
電気機械 2月の変圧器の生産は、安定した受注を背景に前年並みの水準で推移した。配電盤は、好調だった前年の反動もあり、やや減産となった。電熱炉、自動車モーターは、国内の好調な受注に支えられ増産となった。

情報通信機械 3月の携帯電話中継局用マイクロ波通信機器の生産は、アジア諸国(インド向けなど)からの好調な受注を背景に、前年同月比増産となった。衛星通信機器関連、OA関連機器の生産は、前年並みの生産となった。

電子部品・デバイス LSI(大規模集積回路)の受注は昨秋以降やや伸び悩んでいたものの、年明け後上向きの兆しがみえ、2月の生産は前年同月



(資料:国土交通省)



(資料:東北電力福島支店)

をやや上回った。なかでも、ゲーム機、デジタルビデオカメラ、DVDレコーダー向けの生産が好調に推移した。

精密機械 3月の医療用内視鏡の生産は、国内向けの新製品の受注が好調であり、前年同月を上回り推移した。3月のデジタル一眼レフカメラ用レンズは、海外向けを中心に堅調な受注に支えられ、前年同月比で増産となった。

紙・紙加工品 3月の段ボールの生産は、デジタル家電向けや食品向けを中心に、安定した受注に支えられ前年並みの水準で推移した。感熱紙の生産は、レジスター用の受注が堅調で前年同月並の生産となった。ノーカーボン紙の生産も各種申込用紙など安定した需要を背景に、前年並みの水準で推移した。インクジェット紙は、海外からの受注回復により前年同月を上回る生産となった。

窯業・土石 3月の生コンクリート出荷量は前年同月比5.6%増の135,980m³となった。地区別にみると、県北は河川工事やホテル、マンションの新築工事など、会津では公立学校やホテル、マンションの新築工事など、いわきは駅前開発などによりそれぞれ増加した。

木材・木製品 1月の素材（丸太など）の入荷量は、26,215m³（前年同月比3.8%増）、販売量は

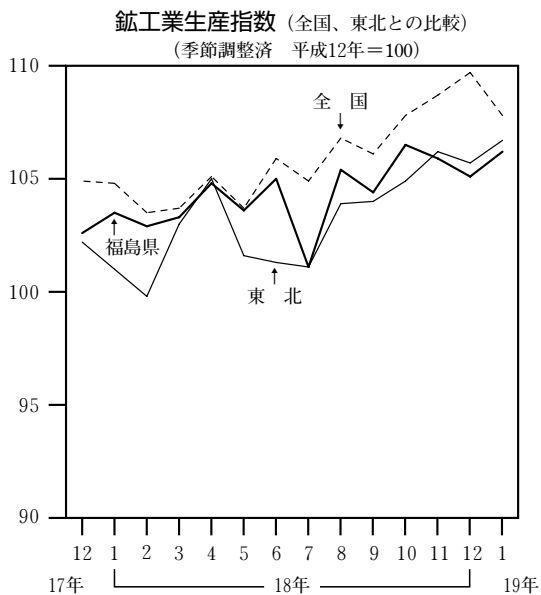
26,136m³（同9.6%増）となった。また、製材品（合板など）の入荷量は2,782m³（同3.7%増）、販売量は2,346m³（同9.5%増）となった。

清酒 2月の清酒移出数量は、需要期を迎えているものの暖冬の影響もあり低迷し、1,433kl（前年同月比2.4%減）と5ヵ月連続で前年を下回った。特定名称酒が379kl（同5.8%増）と3ヵ月ぶりに前年を上回ったものの、一般酒は1,054kl（同5.0%減）と9ヵ月連続で前年を下回った。

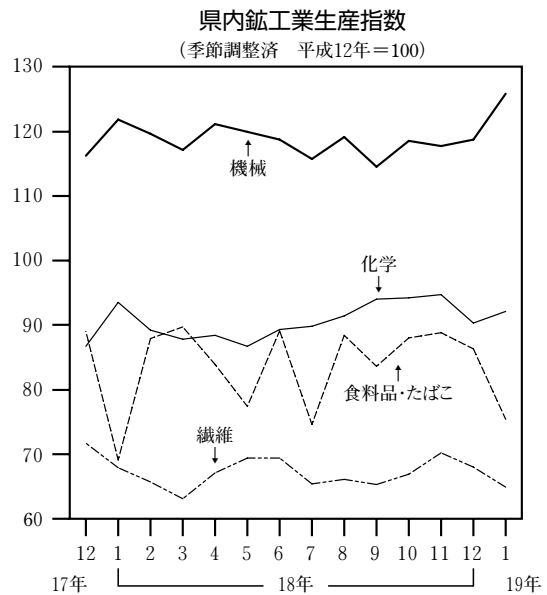
化合繊維物 3月のナイロンの生産は、ダウンジャケット（表地）向けが前年同月並みで推移した。ポリエステルも、紳士服、婦人服の裏地等の受注が堅調、前年並みの生産となった。

ニット 3月のニットは、ジャケット、セーター、カーディガン、ベストなどの生産がピークを迎え、前年並みの水準で推移している。

大口電力 2月の大口電力販売量は、513百万kw/hと前年同月比7.2%増となった。主な販売先を業種別にみると、「電気機械」が111百万kw/h（前年同月比5.3%増）、「非鉄金属」が83百万kw/h（同10.7%増）、「輸送用機械」が55百万kw/h（同6.8%増）、「化学」が53百万kw/h（同6.9%増）、「一般機械」が30百万kw/h（同1.2%増）となった。重油高騰の影響等で自家用発電からの切り替



（資料：県企画調整部 情報統計領域）



（資料：県企画調整部 情報統計領域）

えが進む「パルプ・紙」が28百万kw/h（同43.0%増）と大きく増加した。

—— 企業倒産 ——

企業倒産 3月の企業倒産（負債総額10百万円以上）は、件数17件（前年同月比41.7%増）、負債金額は大型倒産の影響で90億24百万円（同68.8%増）と大幅に増加した。倒産原因をみると、17件全てが受注・販売不振によるものであった。業種別にみると、建設業が6件と最多となり、以下小売業および製造業が3件、不動産業およびサービス業が2件などとなっている。地区別では、県北が6件で最も多く、次いで会津が5件、浜通りが4件、県南が2件となっている。

—— 金融動向 ——

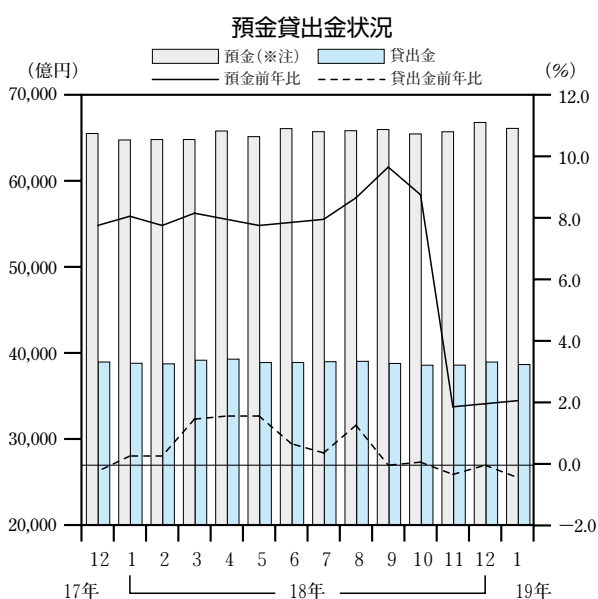
資金需要 県内金融機関（全国銀行、第二地銀、信用金庫、信用組合の県内店舗分）の1月末の預金残高は6兆114億31百万円と前年同月比では0.04%増となった。なお、預り資産（公共債、投資信託、個人年金保険）は、5,934億67百万円（同28.5%

増）となり、預金からのシフトなどにより増加を続けている。貸出金残高は、3兆8,608億98百万円と前年同月比で0.4%減となった。製造業の設備資金（県内3行分）は前年同月比10ヵ月連続で増加した。

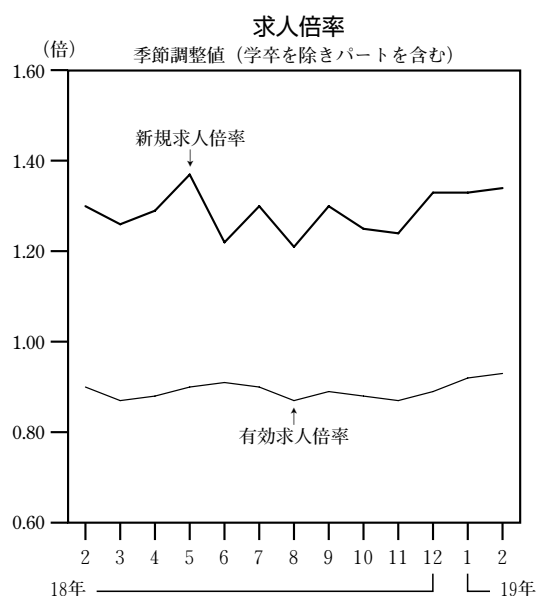
保証協会 3月の保証承諾は、件数1,550件（前年同月比13.5%減）、保証金額136億84百万円（同15.2%減）となった。代位弁済は、件数88件（同14.3%増）、金額7億69百万円（同110.7%増）となった。3月末の保証債務残高は、件数43,911件（同2.3%増）、金額3,067億69百万円（同1.5%減）となった。

—— 雇用動向 ——

雇用動向 2月の新規求人数は13,702人と前年同月比1.7%増加し、新規求職申込件数は9,662件と同2.2%減少した。新規求人倍率（季節調整済、パート含）は1.34倍と前月比0.1ポイント、前年同月比0.04ポイントそれぞれ上回った。また、有効求人倍率（季節調整済、パート含）は0.93倍と前月比0.01ポイント、前年同月比0.02ポイントそれぞれ上回った。



注：平成17年11月から預り資産を含む
（資料：東北財務局福島財務事務所）



（資料：福島労働局職業安定部）